

# 環境分科委員会のプロジェクト

## 北東アジア地域との渡り鳥に関する共同調査（富山県）

### 1 目的

日本では、極東地域をはじめ大陸から渡ってくる冬鳥や旅鳥の渡りのルートなどを解明するための全国的な調査体制が整備されている。

しかし、これらの渡り鳥の繁殖地及び移動コースであると考えられている極東地域では、日本と大陸とを往来する渡り鳥ルート等が解明されていない。

このため、極東地域の自治体と共同で渡り鳥の移動経路、寿命、繁殖開始年齢などを解明するため標識調査を実施する。

### 2 事業内容

#### (1) 実施時期

渡りの時期である春期及び秋期

#### (2) 実施場所

参加自治体の渡り鳥中継地

#### (3) 実施方法

##### ア 調査主体

参加自治体が民間団体へ業務委託。（民間団体は企業及び他団体の助成も得て事業を実施）

##### イ 調査方法等

（調査方法）

・ 網により渡り鳥を捕獲し、計測を行い、標識（足環）を装着し放鳥する。

（調査報告書の作成）

・ 調査結果を共通した記録様式で作成し、とりまとめる。

#### (4) 参加自治体

富山県、ロシア沿海地方

### 3 平成17年度事業結果

#### (1) 参加自治体

富山県、ロシア沿海地方

#### (2) 実施結果

環日本海環境協力の一環として渡り鳥に関する共同調査を進めるため、沿海地方において中心となって調査を行う担当者を、平成18年4月19日（水）から24日（水）までの6日間、富山県の「婦中鳥類観測ステーション」に招き、調査対象鳥類に個体識別用標識（足環）を付ける一連の作業をとおして調査方法を研修するとともに、沿海地方での調査内容を検討・協議した。

また、ロシア沿海地方の中学生や高校生の児童エコクラブ員らを受け入れ、富山県ジュニアアナチュラリストとの意見交換やビオトープ作りなどを通じて、両国で調査等に関わってい

る青少年との交流を深めた。

1998年（平成10年）秋期以来、沿海地方での調査実績は、62,000羽の小鳥類に標識調査（バンディング）を実施することができ、捕獲放鳥した鳥類の共通種は、カシラダカ、アオジ、ホオジロ等約120種であった。

#### 婦中鳥類観測ステーションでの実習

